Panasonic®

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番 SC-HTB520

安全上のご注意

はじめに

準備する

楽しむ

困ったときは?他

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」(⇒ 26 ～ 29) を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

- **本書では、本体の壁掛け方法を説明しています。(⇒ 8 ～ 9)**
- **取り付けや取り外しの際は、必ず工事専門業者または販売店に依頼してください。**
- **取り付け不備、取り扱い不備による事故、損傷については、当社は責任を負いません。**

HDMI

VIERA Link

RQTX1277-3S

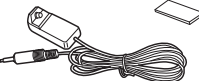
もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。（➔26～29ページ）

はじめに

準備する

楽しむ

困ったときは？他

本書内の表現について
本書内で参照していただくページを (➯ ○○)
で示しています。

本機 SC-HTB520	
本体	SU-HTB520
アクティブサブウーハー （デジタルトランスミッター付）	SB-HWA520

付属品

付属品をご確認ください。

□ リモコン（1個） （N2QAYC000029） ●お買い上げ時は、コイン電池が入っています。	□ HDMIケーブル（1本） （K1HA19CY0001）	□ 電源コード（2本） （K2CA2CA00024）	□ Irシステムケーブル(1本) 両面テープ(1枚) （K2ZZ02C00007）
□ スタンド（2個） （RYQ0853-K）	□ 落下･転倒防止金具（4個） （RFA3321-K）		□ 壁掛け金具（2個） （RMQX1082-K）
□ ねじA M4×8（2本）(XSN4+8FJK) 【壁掛け用】 □ ねじB M5×14（2本）(XYN5+J14FJK) 【落下･転倒防止金具/スタンド用】	□ デジタルトランスミッター(1個) ●アクティブサブウーハーと同梱されています。		□ クッション（2個） （RMG0850-K）

- 付属品の品番は、2011 年 2 月現在のものです。変更されることがあります。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- イラストと実物の形状は異なっている場合があります。

CLUB Panasonic

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://club.panasonic.jp/mall/sense/

携帯電話からもお買い求めいただけます。

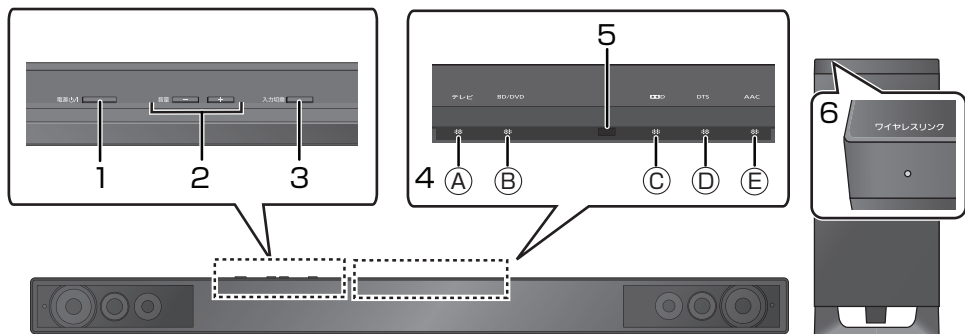
http://p-mp.jp/cpm

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をかたく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた柔らかい布で軽くふいてください。
- 本体前面の光沢部およびスピーカーネット部は、乾いたきめの細かい布（眼鏡ふきなど）でふいてください。ティッシュや繊維がほどけやすい布 (タオルなど) は使用しないでください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので、使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

各部の名前とはたらき

本体とアクティブサブウーハー (前面)

1　電源ボタン
2　音量ボタン
3　入力切換ボタン
- **テレビ：**　テレビの音声を聴く（Ⓐ が緑色に点灯)
- **BD/DVD：** BD/DVD の音声を聴く（Ⓑ がオレンジ色に点灯）

4　ランプ
Ⓐ　テレビ入力ランプ
Ⓑ　BD/DVD 入力ランプ
Ⓒ　ドルビーデジタルランプ :
ドルビーデジタルの音声信号入力時に約 4 秒間点灯※
Ⓓ　DTS ランプ :
DTS の音声信号入力時に約 4 秒間点灯※
Ⓔ　AAC ランプ :
AAC の音声信号入力時に約 4 秒間点灯※

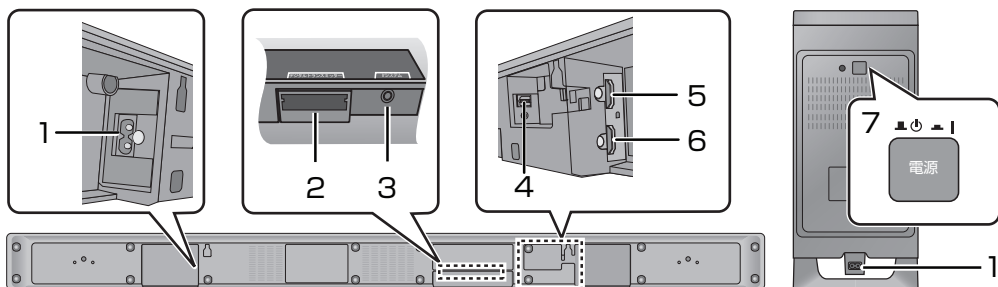
※音声形式を確認するには (⇨ 25)

5　リモコン受信部

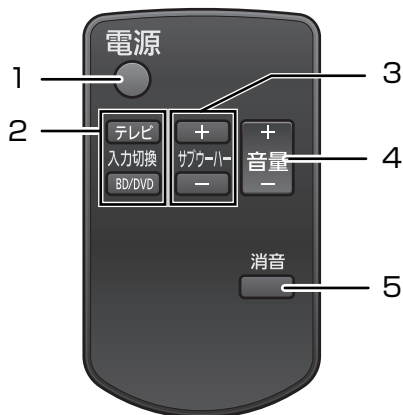
受信範囲

正面　約 7 m 以内
左右　各約 30°

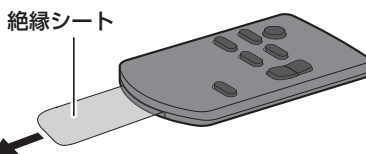
6　ワイヤレスリンクランプ (⇨ 15)

本体とアクティブサブウーハー (背面)

1　AC 入力端子 (AC IN ～)(⇨ 15)
2　デジタルトランスミッター端子 (⇨ 14)
3　Ir システム端子 :
Ir システムケーブルを使う場合に接続 (⇨ 14)
4　光デジタル音声入力端子「テレビ」(⇨ 12)
5　HDMI 映像・音声出力端子「テレビ（ARC 対応)」(⇨ 12)
6　HDMI 映像・音声入力端子「BD/DVD」(⇨ 13)
7　電源ボタン (⇨ 15)

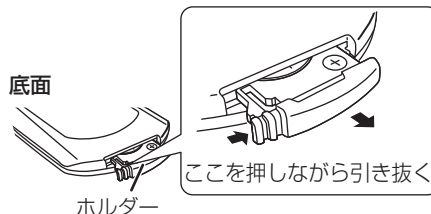
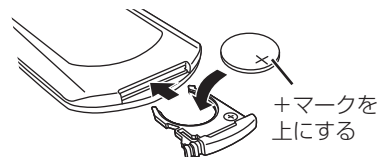
リモコン

本書ではリモコンの操作を中心に説明しています。

1 電源ボタン
2 入力切換ボタン
- [テレビ] :テレビの音声を聴く
- [BD/DVD] :BD/DVD の音声を聴く

3 アクティブサブウーハー（低音）ボタン (⇨ 16)
4 音量ボタン (⇨ 16)
5 消音ボタン (⇨ 16)

絶縁シートを引き抜いてからお使いください。

- 絶縁シートは引き抜いたあと、適切に処理をしてください。

■ コイン電池を交換する

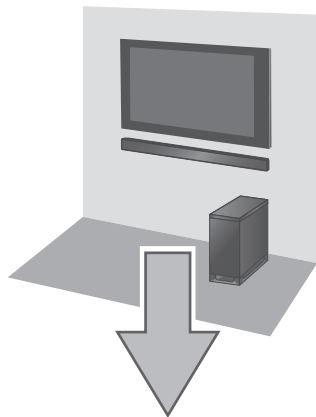
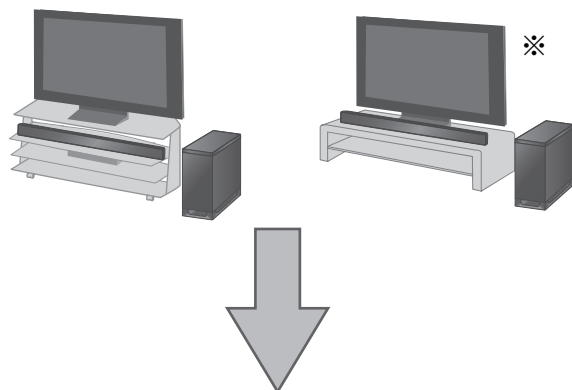
① ホルダーを引き抜く。

② 電池を入れてホルダーを戻す。

- 本体の近くで操作しても動作しない場合は、新しいコイン電池（CR2025）と交換してください。（電池の寿命は使用頻度にもよりますが、約 1 年です。）

はじめに

準備 1　設置する

本体の設置

（イラストはイメージです）

壁掛けする場合	置く場合
8 ページ 「壁掛けする場合」に進む	**10 ページ** 「置く場合」に進む

8 ページ「壁掛けする場合」に進む / 10 ページ「置く場合」に進む

※テレビの前に設置するとき

本体がテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受信部、3D 対応テレビの「3D グラス用発信部」をさえぎる可能性があります。そのときは、以下の処置をお試しください。

付属のスタンドを取り付ける場合

- 各種センサーなどが正常に動作する位置まで本体をテレビから離すか、スタンドの高さを調節する。それでも各種センサーなどがさえぎられる場合は、スタンドを取り外して設置する。

付属のスタンドを取り付けない場合

- 各種センサーなどが正常に動作する位置まで本体をテレビから離す。

上記の処置を試しても各種センサーなどがうまく動作しない場合

- 本体をラックなどの中に設置するか、壁掛けする。
- 付属の Ir(アイアール) システムケーブルを使う。(⇨ 14)(当社製テレビのリモコン受信部にのみ有効。)

- 本体を金属製の棚などに設置しないでください。
- テレビに色ムラが生じる場合は、テレビの電源を約 30 分切ってください。直らない場合は、本体をテレビと離して設置してください。

アクティブサブウーハーの設置

テレビから約 30 cm 離して設置してください。

●テレビが無線 LAN 対応の場合、無線 LAN 部より約 2 m 離して設置してください。

■ 持ち運ぶときは

■ 他機器との距離について

電波の干渉を避けるため、 アクティブサブウーハーと同じ周波数 (2.4 GHz 帯) の他の電気機器とは下記の距離を置いてください。

- 本体から数 m 以内の平らな場所に上部パネルを上にしてアクティブサブウーハーを設置してください。
- アクティブサブウーハー周辺には最低５ cm の空間を確保し、正常な換気を維持してください。
- アクティブサブウーハーを金属製の棚などに設置しないでください。
- アクティブサブウーハーを床、壁、またはお部屋の角に設置した場合、低音が出すぎる場合があります。壁と窓を厚いカーテンで覆うと問題が解消されることがあります。

壁掛けする場合　ー必ず工事専門業者にご依頼くださいー

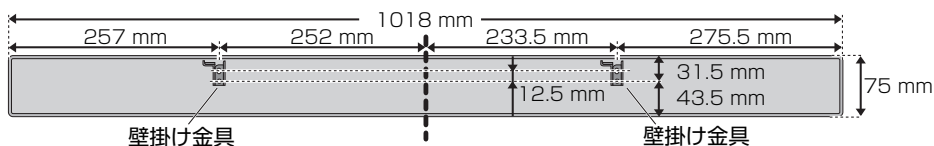
取り付け不備、取り扱い不備による事故、損傷については、当社は責任を負いません。本取扱説明書で指示した以外の取り付けは行わないでください。

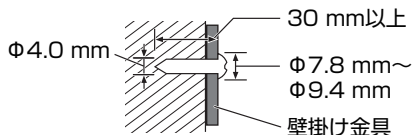
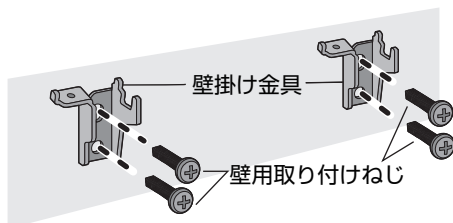
- 取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。
- 設置、組み立ての作業をする際は周囲の安全を確保してください。
- 取り付け場所の構造や材質に合った工法で取り付けてください。また、取り付ける壁の内側に電線や配管が通っていないことを必ずご確認ください。
- 本体の性能保証やトラブル防止のため、シーリングライト（スポットライト、ハロゲンライトなど）の下には取り付けないでください。
- 本体を持ち運ぶときは、必ず両手で持って運んでください。片手で持つと落下するおそれがあります。
- ねじ止めするときは、不十分な締め付けや締め付けすぎをしないようにしてください。

準備する市販品：

- **壁用取り付けねじ 4 本 [壁面の材質（木材、鉄骨、コンクリートなど）に合った呼び径 4 mm 相当のねじをご購入ください。]**
- **落下・転倒防止ワイヤー 2 本（33 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。）**
- **落下・転倒防止ワイヤー用ねじ 2本**

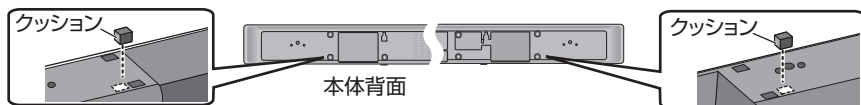
1 壁に壁掛け金具 (付属) を取り付ける位置を決める（2 個所）

- 必ず、本体の最上部より上に 50 mm 以上のスペースを空けてください。十分なスペースがないと、本体上部のボタン操作ができなくなります。

2 壁掛け金具を壁に取り付ける

- 本体が水平になるように取り付けてください。

- 取り付ける壁およびねじには、33 kg以上の質量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。

3 すべてのケーブルとデジタルトランスミッター (付属) を本体に接続する (⇨ 12 ～ 15)

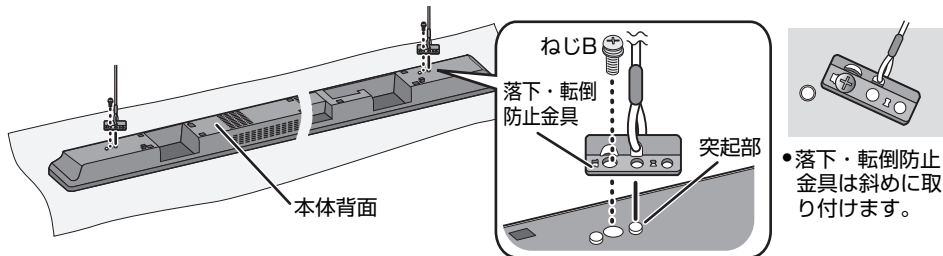
- 電源コードは壁掛けが完了するまでコンセントに接続しないでください。

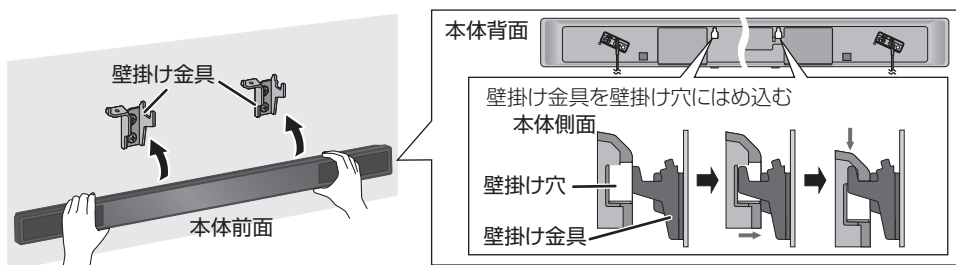
4 クッション（付属）を本体背面に貼り付ける

5 落下・転倒防止金具 (付属)2 個に落下・転倒防止ワイヤーを取り付ける

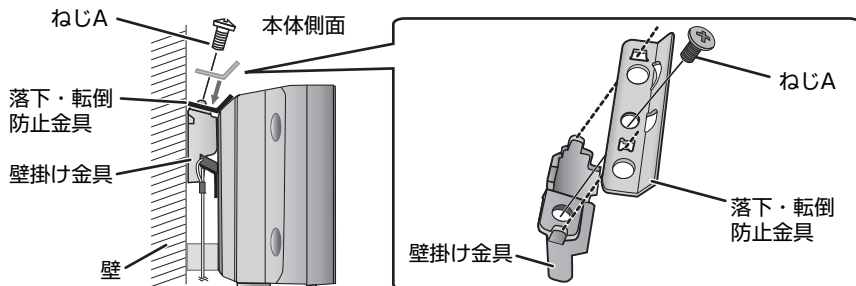
- ワイヤーの取り付け方については、ワイヤーの取扱説明書をご覧ください。

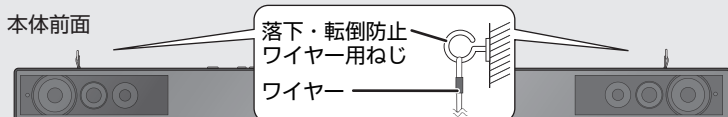
6 ワイヤーを取り付けた落下・転倒防止金具を本体背面の突起部に取り付け、ねじB（付属）で固定する

- 金具は、地震などでの落下によるけがなどの危害を軽減するためのものであり、すべての地震などに対してその効果を保証するものではありません。
- 締め付けトルクは 80 N•cm ～ 120 N•cm です。

- 落下・転倒防止金具は斜めに取り付けます。

7 本体を壁掛け金具に掛ける

- 本体は、手順 8 で残りの落下・転倒防止金具を取り付けるまでは、壁掛け金具に固定されません。誤って本体に触れると、本体が落下する場合がありますので十分お気をつけください。

8 残りの落下・転倒防止金具をねじ A（付属）で、壁掛け金具に取り付ける

- 締め付けトルクは 80 N•cm ～ 120 N•cm です。
- 金具は、地震などでの落下によるけがなどの危害を軽減するためのものであり、すべての地震などに対してその効果を保証するものではありません。

9 落下・転倒防止ワイヤー用ねじを壁に取り付け、ワイヤーで金具と結ぶ

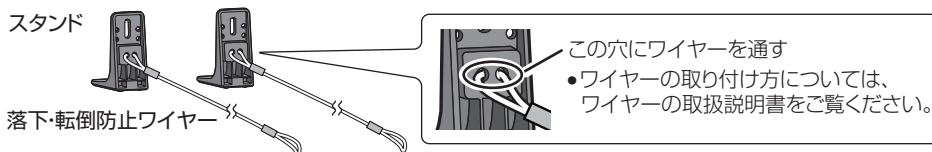
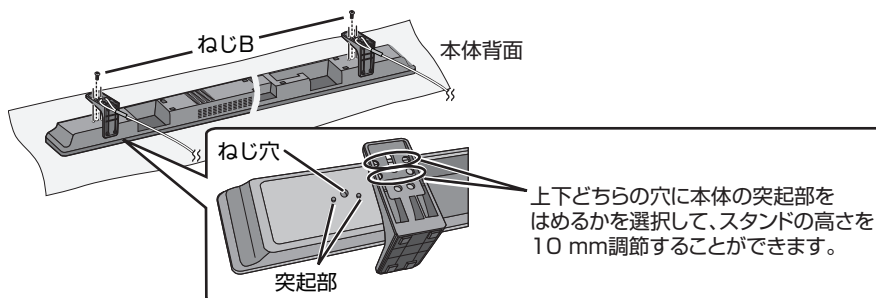
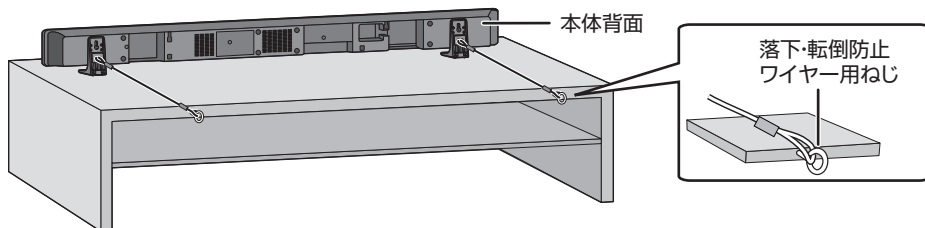
- ワイヤーのたるみが少なくなるようにしてください。

置く場合　ー必ず工事専門業者にご依頼くださいー

安全のため、置く場合は必ず本欄の処置を行ってください。
壁掛けする場合は、本欄の処置は不要です。

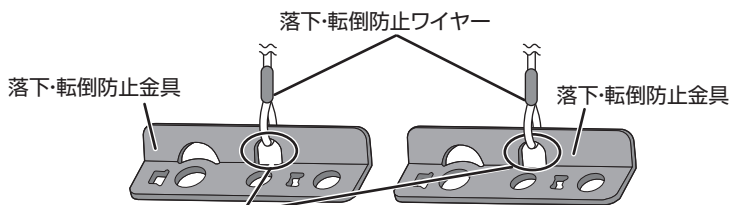
- 置く場合は、ねじ A（付属）は使用しません。
- 取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。
- 本体を持ち運ぶときは、必ず両手で持って運んでください。片手で持つと落下するおそれがあります。

準備する市販品：
- **落下・転倒防止ワイヤー 2 本**
- **落下・転倒防止ワイヤー用ねじ 2本**

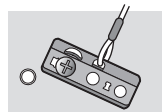
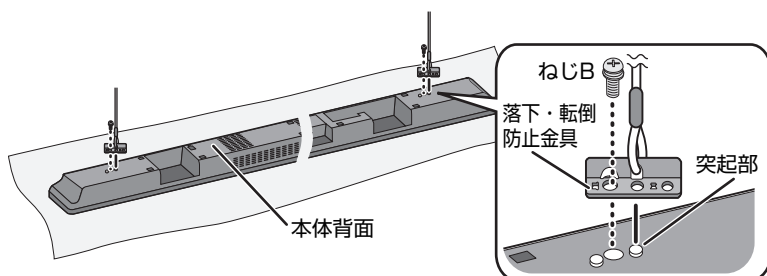
付属のスタンドを取り付ける場合

1 スタンドに落下・転倒防止ワイヤーを取り付ける

2 スタンドを本体背面の突起部に取り付け、ねじ B（付属）で固定する
- 締め付けトルクは 80 N•cm ～ 120 N•cm です。

3 落下・転倒防止ワイヤー用ねじをテレビ台などに取り付け、ワイヤーでスタンドと結ぶ
- 本体をお使いになる環境により、落下・転倒防止ワイヤー用ねじを取り付ける場所は異なります。
- ワイヤーのたるみが少なくなるようにしてください。

付属のスタンドを取り付けない場合

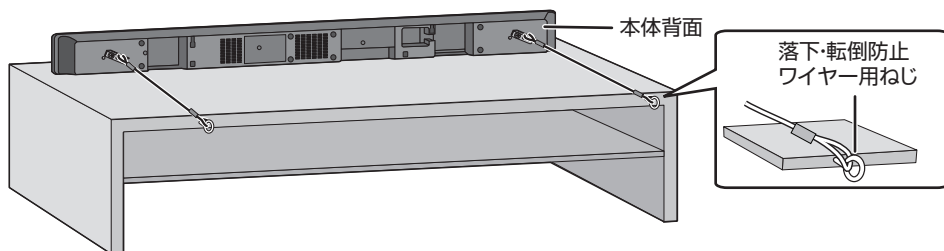
1 落下・転倒防止金具（付属）2 個に落下・転倒防止ワイヤーを取り付ける

- 残りの落下・転倒防止金具 2 個は使用しません。

- ワイヤーの取り付け方については、ワイヤーの取扱説明書をご覧ください。

2 ワイヤーを取り付けた落下・転倒防止金具を本体背面の突起部に取り付け、ねじ B（付属）で固定する

- 金具は、地震などでの落下によるけがなどの危害を軽減するためのものであり、すべての地震などに対してその効果を保証するものではありません。
- 締め付けトルクは 80 N•cm ～ 120 N•cm です。

- 落下・転倒防止金具は斜めに取り付けます。

3 落下・転倒防止ワイヤー用ねじをテレビ台などに取り付け、ワイヤーで金具と結ぶ

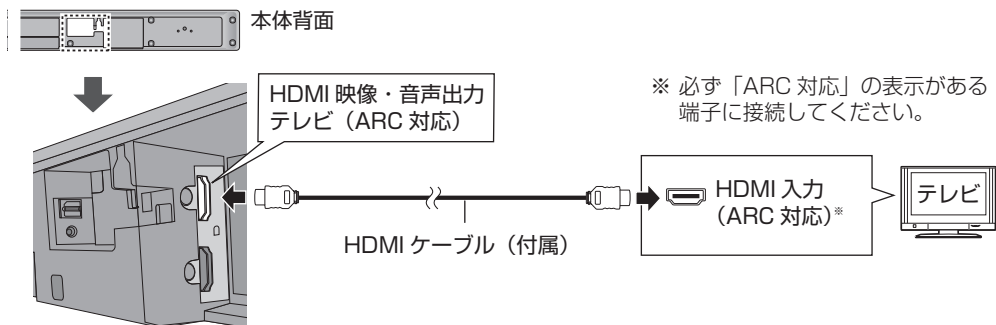
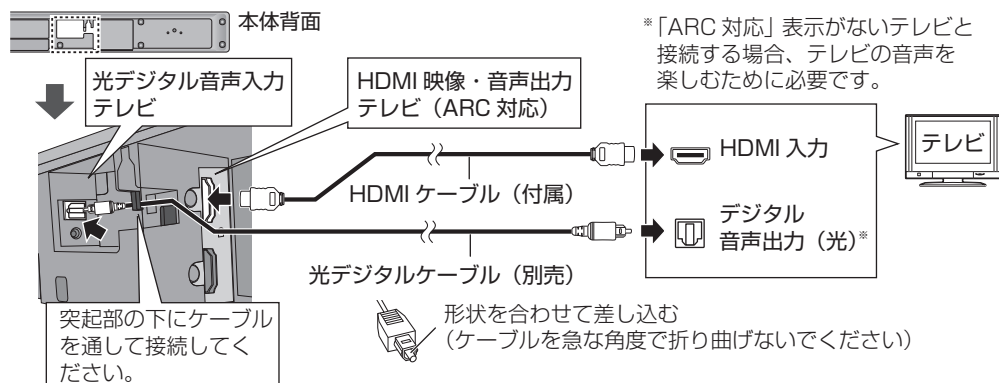
- 本体をお使いになる環境により、落下・転倒防止ワイヤー用ねじを取り付ける場所は異なります。
- ワイヤーのたるみが少なくなるようにしてください。

準備 2　接続する

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続するテレビや各機器の取扱説明書もご覧ください。

すべての接続が完了するまで、 電源コードをコンセントに接続しないでください。

テレビと接続する

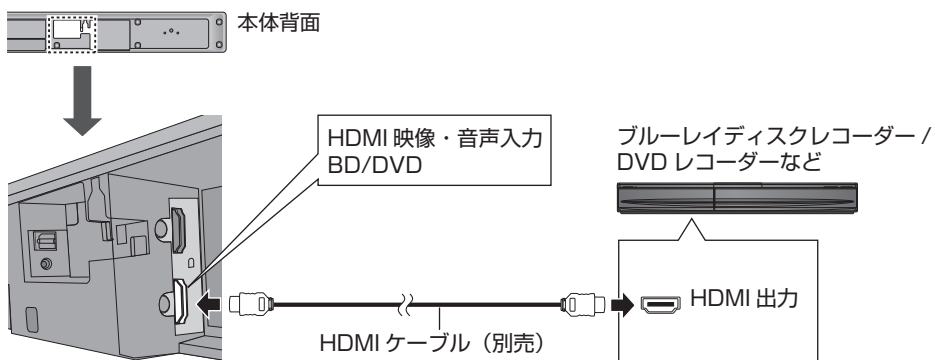
■ テレビ（ビエラ）の HDMI 入力端子に「ARC 対応」の表示があるかを確認してください。	■ ARC とは？
「ARC 対応」の表示がある場合とない場合では、接続が異なります。 **「ARC 対応」表示あり：Ⓐ の接続** **「ARC 対応」表示なし：Ⓑ の接続**	ARC とは Audio（オーディオ） Return（リターン） Channel（チャンネル） の略称で、HDMI ARC とも呼ばれ、HDMI が持つ機能の一つです。 「ARC 対応」と書かれた端子と本体を HDMI 接続すると、従来テレビからの音声を聞くために必要だった光デジタルケーブルが不要になり、HDMI ケーブル 1 本でテレビの映像と音声が楽しめるようになります。

Ⓐ「 ARC 対応」表示あり

Ⓑ「ARC 対応」 表示なし

● テレビが ARC 対応であるにもかかわらず音声が本機に出力されない場合、光デジタルケーブルで接続してください。(⇒ 12, 「Ⓑ「ARC 対応」表示なし」)

ブルーレイディスクレコーダーなどの HDMI 対応機器を接続する

HDMI 対応のブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなどの機器も接続することができます。本体の電源が切れていても、HDMI 対応機器の映像や音声が本体を通過してテレビへ伝送されます。**(スタンバイスルー機能)**

準備する

●本体をテレビと接続する。

■ 本機は3Dに対応しています

●3D対応テレビ、3D対応のブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーを本体に接続して、市販のブルーレイ3Dディスクなどを迫力ある3D映像でお楽しみいただけます。

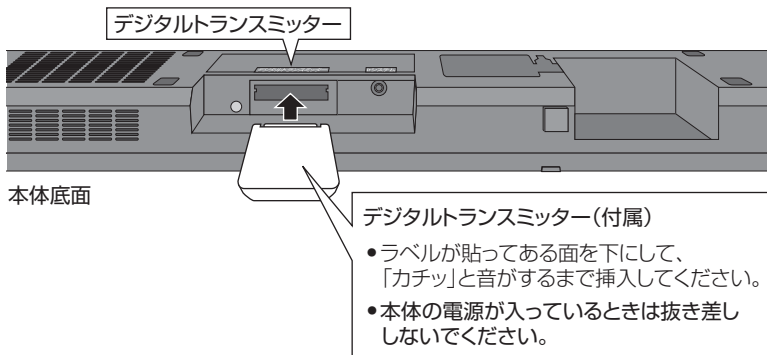
■ 付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合

●当社製HDMIケーブルを推奨します。HDMIロゴ(⇒ 表紙)のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。

品番：RP-CDHS10（1.0 m）、RP-CDHS15（1.5 m）、RP-CDHS20（2.0 m）、
RP-CDHS30（3.0 m）など

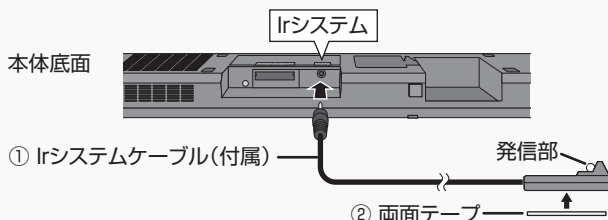
●HDMI 規格に準拠していないケーブルはご使用できません。

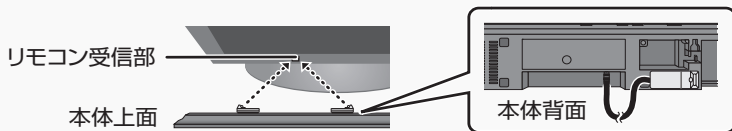
デジタルトランスミッターを接続する

アクティブサブウーハーを無線接続する準備をします。

付属の Ir（アイアール） システムケーブルを使う （テレビのリモコンが働かないとき）

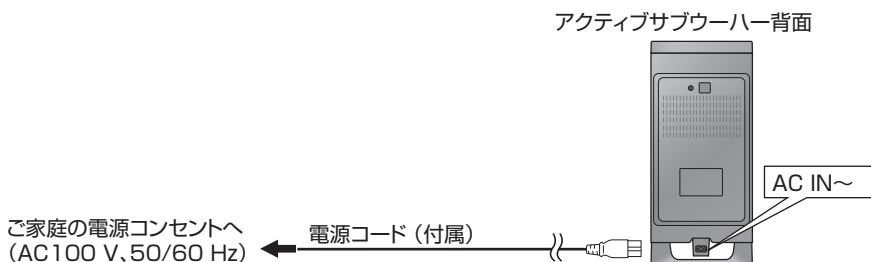
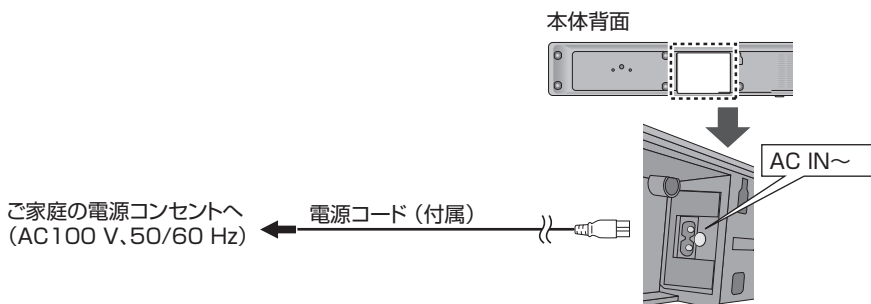
本体の置きかたによっては、テレビのリモコン受信部をさえぎってしまい、テレビのリモコンが働かないことがあります。その場合はリモコンの操作角度を変えるか、付属の Ir システムケーブルをお使いください。
(本体が受けたテレビのリモコン信号をテレビのリモコン受信部に送ってテレビを操作することができます。)

① **Ir システムケーブル（付属）を接続する**

② **Ir システムケーブルに両面テープ（付属）を貼る**

③ **Ir システムケーブルを本体背面などに取り付ける**

- 発信部をテレビのリモコン受信部に向けて取り付けてください。
- テレビのリモコンは、本体のリモコン受信部の受信範囲内で正しくお使いください。

- テレビのリモコン受信部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- お使いになる環境に合った取り付け場所を選んでください。
- 取り付ける個所のゴミやほこりは、しっかりと取り除いてください。
- 付属の両面テープは接着力が強いため、無理にはがすと棚など板の表面を傷めることがあります。
- 付属の Ir システムケーブルは当社製テレビにのみ対応しています。

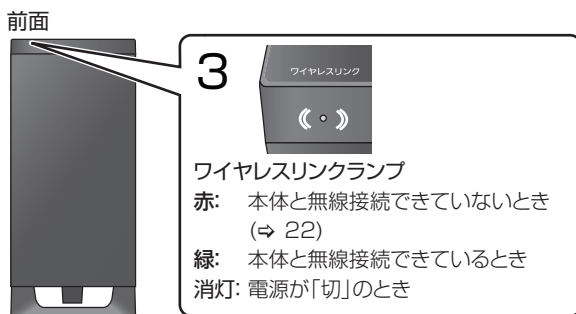
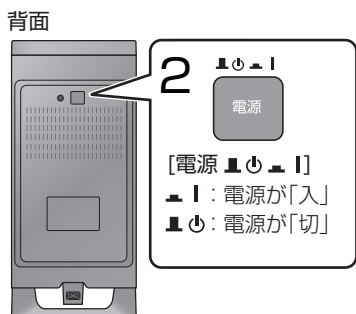
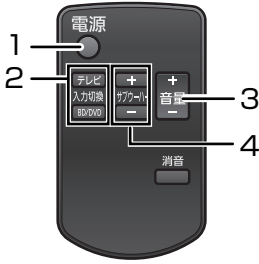
準備 3　電源コードを接続する

電源コードは必ず最後に接続してください。

- 電源を切った状態でも、電力を消費しています（本体：約 0.18 W、アクティブサブウーハー：約 0.07 W）。長期間使用しないときは節電のため電源プラグを抜いておくことをおすすめします。電源プラグを抜くときは、必ず本体、アクティブサブウーハーの電源を切ってから抜いてください。

準備 4　アクティブサブウーハーを準備する

1 本体の電源を入れる

2 アクティブサブウーハーの電源ボタン [電源 ⏻ I] を押す

3 アクティブサブウーハーが無線接続しているか確認する

テレビや映画、音楽を楽しむ

1 本体とアクティブサブウーハーの電源を入れる。

ワイヤレスリンクランプが緑色になっているのを確認してください。(⇨ 15)

2 [テレビ] または [BD/DVD] を押し、接続している機器を選ぶ

[BD/DVD] を選択した場合、テレビの入力を本体が接続されている入力に切り換え、本体に接続している機器で再生の操作をしてください。

3 [+ 音量 −] を押し、本体の音量を調整する

調整範囲：0（最小）〜 100（最大）

4 [+ サブウーハー −] を押し、アクティブサブウーハーのレベルを調整する

調整範囲：4段階

● 一時的に音を消すには、[消音] を押す

消音中は Ⓐ が点滅します。

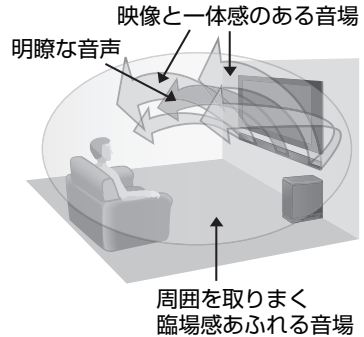
● テレビのスピーカーからも音が出ている場合があります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
● 音量やサブウーハーレベルの調整時、Ⓐ が左から右 (+)、または右から左 (−) に点滅します。
最大値または最小値に到達するとボタンを押してもランプは点滅しません。
● テレビと本体の音量調整の最大値が異なる場合があります。
● 電源「切」時に 50 を超えた音量になっていた場合は、次回電源「入」時には音量が 50 に設定されます。
（音量制限機能）設定は解除することもできます。(⇨ 21)
● BD/DVD 端子に接続した機器を再生中に、入力を [テレビ] に切り換えても、BD/DVD 端子に接続した機器の映像（または音声）が「HDMI 映像・音声出力テレビ（ARC 対応）端子」から出力されます。
● 本機では音量値表示はされません。シアターの音量値表示に対応した当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせた場合には、テレビ画面に音量値が表示されます。(⇨ 19)
● [消音] をもう一度押すか、音量操作や本体の電源操作を行った場合、または電源コードを抜き差しした場合、消音は解除されます。

本機の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻してみると症状が改善されることがあります。(⇨ 20)

3D サウンド再生

本機では、映像と一体となった臨場感あふれる音場を楽しむことができます。

■ 3D サラウンド効果

後方にスピーカーを設置しなくてもサラウンド効果を得ることができる「ドルビーバーチャルスピーカー」を採用しています。さらに、独自の音場制御技術により上下 / 前後方向の音場を広げ、3D映像にもマッチした奥行感や迫力のある音を実現しています。

■ 明瞭ボイス効果

テレビ画面の方向からドラマのセリフやスポーツ中継の解説などの音声が聞こえるため、映像と一体感のある音が楽しめます。また、通常の音量時だけではなく、周囲への騒音が気になる夜間などの小音量時でも、セリフの聞き取りやすさを失わずに音声を楽しむことができます。

再生モードについて

お買い上げ時の設定では、ブルーレイや DVD などのマルチチャンネル音声だけではなく、テレビ放送などの2チャンネル音声に対してもサラウンド効果が働きます。
再生モードを変更することで、サラウンド効果を「切 / 入」できます。

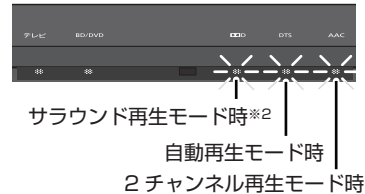
再生モード	入力音声	サラウンド効果
サラウンド再生モード（初期設定）	2 チャンネル / マルチチャンネル	○
自動再生モード※ 1	2 チャンネル	×
	マルチチャンネル	○
2チャンネル再生モード	2 チャンネル / マルチチャンネル	×

※ 1： 入力信号に応じて、サラウンド効果が自動的に設定されます。

■ 再生モードの切り換え

1 **リモコンの [消音] を 2 秒以上押し続ける。**
- 本体のランプが点滅し、現在の再生モードが表示されます。
  ※ 2： 入力音声がマルチチャンネルの場合は、自動再生モード時もこのランプが同時に点滅します。

2 **モード表示中に [消音] を再度押す。**
- 押すたびに再生モードが順に切り換わります。操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

（点滅するランプ）

楽しむ

お好みにより下記の操作をすることで、ドルビーバーチャルスピーカーの効果だけで楽しむことができます。

1 **リモコンの [テレビ] を 2 秒以上押し続ける。**
- 本体のランプが点滅し、現在の設定状態が表示されます。

2 **設定状態表示中に [テレビ] を再度押す。**
- 押すたびに設定が切り換わります。操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。
- 電源を「切 / 入」すると「通常」設定に戻ります。

（点滅するランプ）

- 光デジタル接続している場合、48 kHz を超えるサンプリング周波数の信号が入力されるとサウンド効果、ドルビーバーチャルスピーカーの機能は自動的に解除されます。

ビエラリンク（HDMI）を使う

ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは
本体と HDMI ケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
※すべての操作ができるものではありません。

- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。
- ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本体はビエラリンク（HDMI）Ver.5 に対応しています。ビエラリンク（HDMI）Ver.5 とは、従来の当社製ビエラリンク機能にも対応した最新の当社基準です。（2010 年 12 月現在）
- お使いのテレビがビエラリンク（HDMI）対応か分からないときは、機器にビエラリンク（HDMI）のロゴマーク (⇨ 表紙) が付いているかをお確かめになるか、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

準備する

① **本体とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を HDMI ケーブルで接続する。(⇨ 12、13)**
- HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

② **テレビ（ビエラ）の設定を以下のように変更する。（機器により表示が異なる場合があります。）**
- 「電源オン時の音声出力」を「シアター（AV アンプ)」にする。
- 「音声をシアター（AV アンプ）から出す」を選ぶ。
- 「サウンド」を「オート」にする。

③ **すべての機器の電源を入れ、一度テレビの電源を「切 / 入」する。**

BD/DVD 端子に機器を接続している場合は、下記 ④、⑤ も行ってください。

④ **テレビ（ビエラ）の入力を切り換え、本体と接続した HDMI 入力を選ぶ。**

⑤ **BD/DVD 端子に接続した機器の再生を開始し、本体の入力を「BD/DVD」に切り換え、画像が正しく映ることを確認する。**

- 各機器がビエラリンク（HDMI）を働かせる設定になっているか確認してください。
- 機器を追加したときや接続しなおしたとき、工場出荷設定に戻したとき (⇨ 20) にも上記の操作を行ってください。

ビエラリンク(HDMI)でできること

テレビ（ビエラ）のリモコンで行う操作です
必ず 18 ページの「準備する」を先に行ってください
本リモコンの電源ボタンで電源を入れずに、テレビ（ビエラ）のリモコンで「音声をシアター（AV アンプ）から出す」を選択してください。（本体の電源が自動的に入ります。）
- **テレビによって、操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。**

本体の電源を自動で「入 / 切」する

テレビ（ビエラ）の電源を「入」にすると、本体の電源も入ります。（「切」にすると、本体の電源も切れます。）

本体の音量調整をする

テレビ（ビエラ）のリモコンで本体の音量調整ができます。
- 音量表示は、ビエラリンク(HDMI) Ver.5 以降に対応の当社製テレビ(ビエラ) で表示されます。

音場効果を自動で切り換える

ビエラリンク（HDMI）対応の接続機器でデジタル放送の番組を視聴または再生中、DVD、CD、SD などを再生中に、そのソースサウンドを自動で切り換えることができます。[**番組ぴったりサウンド**（オートサウンド連携）]
手動でテレビ（ビエラ）の「サウンド」を変更して、本体のサウンド効果も連動して切り換えることもできます。
- 番組ぴったりサウンドは、ビエラリンク(HDMI) Ver.3 以降に対応の当社製テレビ(ビエラ)で動作します。
- 接続した機器側で、自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ(ビエラ)から音声を出すように切り換える

テレビ（ビエラ）で「音声をテレビから出す」を選択します。
- ビエラリンク(HDMI) Ver.4 以降に対応の当社製テレビ(ビエラ)と組み合わせる場合は、自動的に本体の電源を切る設定もできます。**(こまめにオフ機能)**

- ビエラリンク（HDMI）対応のレコーダー（ディーガ）も接続している場合、テレビ（ビエラ）の電源をリモコンで切るとレコーダー（ディーガ）の電源も自動的に「切」になります。
- テレビ(ビエラ)のリモコンでチャンネル選択などの操作を行うと、本体の入力は[テレビ]になります。
  BD/DVD 端子に接続した機器で再生などの操作を行うと、本体の入力は[BD/DVD]になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本体の電源を入れると、テレビ（ビエラ）が「音声をシアター (AV アンプ) から出す」設定になります。
- ビエラリンク(HDMI) Ver.3 以降に対応している当社製テレビ(ビエラ)と接続時に、映像が音声よりも遅れている場合に、自動的に音声を遅らせて映像に近づけます。(オートリップシンク)
  ビエラリンク(HDMI) Ver.2 以前の当社製テレビ(ビエラ)、または当社製以外のテレビを接続している場合は、音声を「40 ms(msec)」遅らせる設定になります。

故障かな！？

故障かな？と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、症状が載っていないときは販売店にご相談ください。

■ 本体の設定をお買い上げ時の状態（工場出荷設定）に戻すには

① 電源「入」の状態で、本体の電源ボタンを4秒以上押し続ける。
② 本体のすべてのランプが数回点滅したあと消灯することを確認する。

お買い上げ時の設定に戻ります。

本体の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻してみると、症状が改善されることがあります。

共通

電源が入らない。

- 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。
- 電源ボタンを押しても本体のランプが点滅し、すぐに電源が切れてしまう場合は、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。

リモコンが働かない。

- 電池が消耗している場合は電池を交換してください。
- 絶縁シートがついたままの場合は、絶縁シートを抜いてからお使いください。(⇨ 5)
- 本機とリモコンでリモコンモードが異なるときは、同じになるように設定してください。(⇨ 下記)
- 電池を交換後、リモコンモードを再度設定する必要がある場合があります。(⇨ 下記)

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまう。

- 下記の操作を行い、本機とリモコンを、「リモコンモード2」に設定します。
  ① 他の当社製オーディオ製品の電源を切ってから、リモコンを本体に向けながら、リモコンの [BD/DVD] を押したまま [消音] を4秒押したままにする。
  ② 本体のドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが点滅（約10秒間）することを確認する。（その他のランプは消灯します。）

  –元に戻す（「リモコンモード1」にする）場合は、リモコンの [テレビ] を押したまま [消音] を4秒間押したままにしてください。

テレビ入力ランプが点滅し、音が出ない。

- 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。テレビ入力ランプ以外のランプも点滅している場合は、どのランプかをお知らせください。

ドルビーデジタルや DTS、AAC ランプが約10秒間点滅して消える。

- 再生モードの切り換え操作をしていませんか。(⇨ 17)
- ドルビーバーチャルスピーカーの効果のみで楽しむための操作をしていませんか。(⇨ 17)
- 二重音声放送の「主音声 / 副音声 / 主音声＋副音声」の切り換え操作をしていませんか。(⇨ 21)

ドルビーデジタル、DTS、AAC のランプが点滅して音が出ない。

- 「消音」になっている場合、消音を解除してください。(⇨ 16) 消音中はドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが同時に点滅します。

点灯・点滅していた本体のランプが消えてしまった。

- 本機ではランプの点灯・点滅によって機能の状態を一定時間表します。点灯・点滅後に消灯しても本機の故障ではありません。

HDMI

正常に動作しない。

- HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続しなおしてください。(⇨ 12 ～ 13)

ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。

- 接続した機器のビエラリンク（HDMI）設定を確かめてください。
- ビエラリンク（HDMI）の効果を切っていませんか。工場出荷設定に戻してください。

- HDMI 機器の接続を変更したときや、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下を試してみてください。
  - HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れなおす。
  - テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）を働かせる設定を一度「切」にした後、再度入れなおす。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
  - テレビ（ビエラ）と本体を HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本体の電源プラグを一度抜いてから接続しなおす。

HDMI 接続で、初めの数秒間の音声が再生されない。

- DVDをチャプターから再生した場合に起こることがあります。接続した映像機器のデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM設定にしてください。

他社 HDMI 対応機器（テレビやブルーレイディスクレコーダーなど）との接続時に、動作が不安定になる。

- 下記の操作で、ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にします。
  ① リモコンの［消音］と本体の［音量－］を２秒以上押し続ける
  ② 本体のドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが 1 回点滅することを確認する
  ③ 設定変更後に、接続しているすべての機器の電源を「入/切」する
  - 元に戻すには、工場出荷設定に戻してください。（⇨ 20）
  - ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にするとARCの機能が働かなくなります。必ず光デジタルケーブルを接続してください。（⇨ 12）

音声

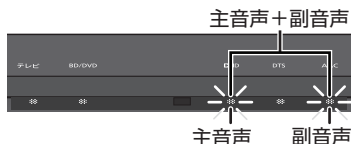
機器の再生を始めても音 (または映像) が出ない。

- 「消音」になっている場合、消音を解除してください。（⇨ 16）消音中はドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが同時に点滅します。
- 機器が正しく接続されているか確認してください。（⇨ 12 ～ 15）
- 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。（⇨ 25）
- 本体の電源を「切/入」してください。
- テレビと HDMI 接続をしている場合は、テレビの HDMI 端子に「ARC 対応」と表示されているか確認してください。表示がない場合は、HDMI ケーブルに加えて光デジタルケーブルを接続してください。（⇨ 12）
- 当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合、本体の電源ボタン、あるいはリモコンで本体の電源を入れると本機から音が出ない場合があります。ビエラリンクを使用し、テレビ（ビエラ）のリモコンによる電源操作を行ってください。（⇨ 19、「ビエラリンク（HDMI）でできること」）
- 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。
- 入力信号を正しく選択してください。
- ドルビーデジタル、DTSランプが点滅し、音が出ない場合は、電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。
- BD/DVD入力ランプが点滅し、音が出ない場合は、以下の処置をしてください。
  ① 接続した機器の電源を「切 / 入」する。
  ② 本体の電源を切り、HDMI ケーブルを抜き差しした後、再度電源を入れる。

DTS の音声が出ない。

- 接続している映像機器のデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確認してください。

デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。

- テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されている場合は、下記の操作で切り換えることができます。
  ① リモコンの [BD/DVD] を 2 秒以上押し続ける。（以下のランプが点滅します）

  ② 現在の状態が表示中（約 10 秒間）に [BD/DVD] を再度押す。
  - 押すごとに設定が切り換わります。
  - 操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

50 を超えた音量にして電源を切ると、次回電源を入れたとき音量が 50 になってしまう。

- 本体には、過大出力を制限する「音量制限機能」があります。（⇨ 16）下記の操作で機能を使わない設定にできます。
  ① リモコンの [消音] を押したまま本体の [音量 +] を 2 秒以上押し続ける。
  ② 本体のドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが 1 回点滅することを確認する。
  - 元に戻すには、工場出荷設定に戻してください。（⇨ 20）

テレビの音声が途切れる。

- 音切れする場合、テレビ側の音声出力の設定をビットストリーム（AAC）にしてください。

小音量時に声が強調されすぎたり、声の質に違和感があったりする。

- 本体には、小音量時にさらに声を聞きとりやすくする機能があります。違和感などがある場合には、下記の操作でその機能を使用しないように設定できます。
  ① リモコンの[テレビ]と本体の[音量－]を2秒以上押し続ける。
  ② 本体のドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが 1 回点滅することを確認する。
  – 元に戻すには、工場出荷時設定に戻してください。(⇨ 20)

音が出なくなった。電源が勝手に切れる。（本体は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。）

- アンプの出力異常です。音量を下げ、電源の「入 / 切」をしてみてください。
- 著しく大きな音で聞いていませんか。または異常に暑い場所で使用していませんか。
  ⇒ 音量を下げるなどして原因を解消し、しばらく待ってから再び電源を入れてください。（保護回路の動作が解除されます。）

それでも同じ現象が起こる場合は、電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。他のランプが点滅しているときは、そのランプの位置をお知らせください。

地上デジタル/BS放送の番組で初めの数秒間の音声が再生されない。

- テレビ（ビエラ）の「サウンド」を「オート」から「スタンダード」に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

アクティブサブウーハー

電源が入らない。

- アクティブサブウーハーの電源コードが正しく接続されているか確かめてください。

アクティブサブウーハーの電源を入れてもすぐに電源が切れる。

- 電源コードをコンセントから抜き、販売店にご相談ください。

アクティブサブウーハーの音が出ない。

- アクティブサブウーハーの電源が入っているか確認してください。
- ワイヤレスリンクランプが緑色に点灯しているか確認してください。(⇨ 15)

ワイヤレスリンクランプが赤色に点灯する。

- アクティブサブウーハーが本体と無線接続していません。
  – 本体の電源が入っているか確かめてください。
  – デジタルトランスミッターが本体の端子に完全に挿入されているか確かめてください。(⇨ 14)
  – アクティブサブウーハーの電源を「切 / 入」してみてください。または、アクティブサブウーハーの電源を切ったあと、電源コードを抜いて、再度差し込んでください。

解決しない場合は、販売店にご相談ください。

番組連動おまかせエコについて

番組ぴったりサウンド (⇨ 19) と連動し、比較的音量変化の少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時に自動的に消費電力を抑えます。（**エコモード**）

- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）が必要です。

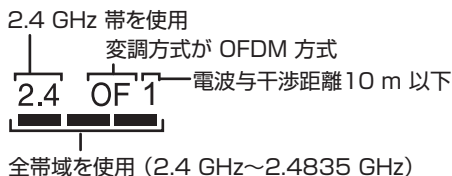
エコモードを使わないときは

① リモコンの[BD/DVD]と本体の[音量－]を2秒以上押し続ける。
② 本体のドルビーデジタル、DTS および AAC ランプが 1 回点滅することを確認する。
  – エコモードを使用する設定に戻す場合は、本体を工場出荷設定に戻してください。(⇨ 20)

ワイヤレス機能について

本機は、2.4 GHz 帯の周波数帯を使用しているため、障害物で電波がさえぎられたり、周囲の環境（外部からの電波の混入など）や本機をご使用になる建物の構造（電波を反射しやすい壁など）により、音が途切れたり、雑音が出る場合があります。下記の内容にご注意いただき、正しく設置してください。

■ 周波数表示の見方（アクティブサブウーハーの背面およびデジタルトランスミッターの裏面に記載）

2.4 GHz 帯を使用
変調方式が OFDM 方式
電波与干渉距離10 m 以下
2.4 OF 1
全帯域を使用 (2.4 GHz～2.4835 GHz)

■ 機器認定

本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、本機に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。

- **分解・改造する**
- **アクティブサブウーハーの背面やデジタルトランスミッターの裏面に貼ってあるラベルをはがす**

■ 使用制限

- 日本国内でのみ使用できます。
- 本体とアクティブサブウーハーは同一部屋内でお使いください。

■ 本体とアクティブサブウーハーの間に障害物を置かない。本体やアクティブサブウーハーの上に物を置かない。

本機の電波が届く範囲は、同一部屋内で最大 10 m です。本体とアクティブサブウーハーの間に障害物がある場合や、本体を床面から 50 cm 以下の高さにおいた場合は、電波の届く範囲は短くなります。

■ 電波干渉を生じるような機器から本機を離す。

以下のような機器が近くにあるときは、本機をそれらの機器から離して設置してください。

- **Bluetooth® 対応機器、無線 LAN 対応機器、OA 機器、電子レンジ、電話など：約 2 m 以上**

本機は、これらの家庭用機器との電波干渉を自動的に避けるように設計されています。電波の干渉がある場合、アクティブサブウーハーのワイヤレスリンク表示 (⇨ 15) が赤色に点灯し、アクティブサブウーハーからの音が途切れたり、雑音が出る場合があります。これは本機が適切な周波数を選ぶときに起きる現象で、本機の故障ではありません。

■ 電波が反射しやすい金属物などの近くからできるだけ離す。

本機を設置する部屋に金属物や家具などがあると、電波が反射しやすくなり視聴位置によって音が途切れたり、雑音が出る場合があります。このようなときは、本機の位置を少し動かすと改善される場合があります。また、人の出入りが激しい部屋などに置いた場合も、電波が反射しやすくなりますので、ご注意ください。

この機器の使用周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、ならびにアマチュア無線局が運用されていない事を確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに場所を移動するか、または電波の使用を停止したうえ、お客様ご相談センター (⇨ 30) にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様ご相談センター (⇨ 30) へお問い合わせください。

仕様

総合

電源：AC100 V、50/60 Hz
消費電力
（本体）： 44 W
（アクティブサブウーハー）： 52 W
電源スタンバイ時の消費電力：
（本体）： 約 0.18 W
（アクティブサブウーハー）： 約 0.07 W

動作使用条件
周囲温度： 0 ℃～ 40 ℃
相対湿度： 20 %～ 80 %（結露なきこと）

アンプ部

実用最大出力合計値： 240 W
（非同期駆動、JEITA）

実用最大出力
フロント（L/R）：
60 W + 60 W（1 kHz、4 Ω）
アクティブサブウーハー：
120 W（100 Hz、8 Ω）
（非同期駆動、JEITA）

負荷インピーダンス
フロント（L/R）： 4 Ω
アクティブサブウーハー： 8 Ω

信号対雑音比（SN 比）
BD/DVD、テレビ： 82 dB

入出力端子

音声	光デジタル音声入力（テレビ）	1
映像・音声	HDMI 入力（BD/DVD）：	1
	HDMI 出力 ARC 対応（テレビ）：	1
その他	Ir システム：	1

本機は、ビエラリンク Ver.5 に対応しています。

システム部

寸法（幅 × 高さ × 奥行）
本体 1018 mm × 75 mm × 44 mm
（小突出部・付属品除く）
1018 mm ×77 mm × 52 mm
（落下・転倒防止金具 2 個含む）
1018 mm × 95 mm × 75 mm
［スタンド取り付け時（低）］
1018 mm × 105 mm × 75 mm
［スタンド取り付け時（高）］
アクティブサブウーハー
180 mm × 408 mm × 306 mm

質量
本体 約 2.5 kg
（スタンドおよび落下・転倒防止金具含まず）
約 2.6 kg（落下・転倒防止金具 2 個含む）
約 2.6 kg（スタンド含む）
アクティブサブウーハー 約 5.2 kg

スピーカーシステム部

フロントスピーカー部（L/R）
2 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）：
6.5 cm コーン型ウーハー ×2
2.5 cm セミドームツイータ ×2

アクティブサブウーハー部
1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）：
16 cm コーン型ウーハー

ワイヤレス部

周波数帯域 2.4 GHz ～ 2.4835 GHz
チャンネル数 3

- この仕様は、性能向上のために変更することがあります。

本機で再生できるデジタル情報

AAC	地上デジタル放送や BS 放送など
ドルビーデジタル	ブルーレイディスクや DVD など
DTS	ブルーレイディスクや DVD など
LPCM（2 チャンネル）	CD や DVD オーディオなど
LPCM（マルチチャンネル）	ブルーレイディスクや DVD オーディオなど

■ 音声形式を確認するには

テレビ入力を選択中はリモコンの [テレビ]、BD/DVD 入力を選択中はリモコンの [BD/DVD] を押してください。ドルビーデジタルや DTS、AAC の信号が入力されている場合、対応するランプが約 4 秒間点灯します。(⇨ 4) 入力がないか、もしくは LPCM 信号が入力されている場合は、ランプは点灯しません。

本機は x.v.Color（カラー）や Deep Color（ディープ カラー）に対応しています

x.v.Color（カラー）

x.v.Color™ に対応した機器を HDMI 接続すると、x.v.Color 規格で記録された広色域の鮮やかな色をより忠実に再現できます。

Deep Color（ディープ カラー）

対応するテレビやレコーダーなどに接続することで、より幅の広いカラーグラデーション（4096 段階）を再生することができます。滑らかで複雑なグラデーションを表現し、縞模様状に見える色の変化を最小限に抑えた、抜群に深みのある、自然に近い色をお楽しみいただけます。

著作権など

ーこのマークがある場合はー

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

異常があったときには、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 映像や音声が出ないことがある
- 内部に水や異物が入った
- 電源プラグが異常に熱い
- 本体に変形や破損した部分がある

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

● 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

● 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

● 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

⚠警告

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災·感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ねじ類やコイン電池、壁掛け金具、落下·転倒防止金具、両面テープ、クッションは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

心臓ペースメーカーを装着している方は本体を装着部から22 cm以上離す

本体からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

分解、改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

本体からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

病院内や医療用電気機器のある場所で使用しない

本体からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

⚠ 注意

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

●直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
●また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。

●背面の通風孔をふさがないでください。
●また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

・高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

テレビ台やラックなどに置いたり、テレビの前に置いて使うときは、落下・転倒防止処置をする

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

●落下・転倒防止処置は必ず工事専門業者にご依頼ください。

コイン電池は誤った使いかたをしない

●指定以外の電池を使わない
●⊕と⊖を逆に入れない
●加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
●ネックレスなどの金属物といっしょにしない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

壁掛け工事および落下・転倒防止処置時

⚠ 警告

工事専門業者以外は取り付け工事や取り外しを行わない

工事の不備により、落下してけがの原因になります。

垂直な壁以外の場所に取り付けない

落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

本取扱説明書で指示した以外の取り付けは行わない

落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

荷重に耐えられない場所に取り付けない

取り付け部の強度が弱いと、落下してけがの原因になります。

壁掛けの取り付け強度は33 kg以上を確保する

強度が不足すると、落下してけがの原因になります。

長期使用を考慮して設置場所の強度を確保する

長期使用により設置場所の強度が不足すると落下してけがの原因になります。

⚠ 注意

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気、熱が当たるところ、エアコンの下などの水滴がかかるおそれのあるところに取り付けない

機器に悪影響を与え、火災・感電の原因になることがあります。

ねじ類や壁掛け金具、落下・転倒防止金具、両面テープ、クッションは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼす場合があります。

● 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

取り付けの際は、専門の構成部品を使用する

機器本体が落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

取り付けねじや電源コードが壁内部の金属部や配線部材と接触しないように設置する

壁内部の金属部や配線部材と接触して、感電の原因になることがあります。

機器本体を取り外す場合には、壁掛け金具も取り外す

壁掛け金具にあたるなどして、けがの原因になることがあります。

安全に操作するために、適切な高さに取り付ける

無理な体勢での操作は落下したり、けがの原因になることがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

使いかた･お手入れ･修理などは･･･

■ **まず､お買い求め先へご相談ください。**

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	（　　）　―
お買い上げ日	年　月　日

修理を依頼されるときは･･･

「故障かな！？」(⇨ 20) でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

● **製品名**	**ホームシアターオーディオシステム**
● **品番**	**SC-HTB520**
● **故障の状況**	**できるだけ具体的に**

● **保証期間中は、 保証書の規定に従って出張修理いたします。**

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

● **保証期間終了後は、 診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**

※ 修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	**診断・修理・調整・点検などの費用**
部品代	**部品および補助材料代**
出張料	**技術者を派遣する費用**

※ **補修用性能部品の保有期間**　８年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

■ **転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。**

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック お客様ご相談センター

電 話　365日 受付9時～20時

フリーダイヤル

0120-878-365

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

●修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理ご相談窓口

電 話

フリーダイヤル 携帯･PHS OK **0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■各地域の 修理ご相談窓口 ※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区		
札 幌	☎(011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
旭 川	☎(0166)22-3011	旭川市2条通16丁目1166
帯 広	☎(0155)33-8477	帯広市西20条北2丁目23-3
函 館	☎(0138)48-6631	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）
東北地区		
青 森	☎(017)775-0326	青森市大字浜田字豊田364
秋 田	☎(018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
岩 手	☎(019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
宮 城	☎(022)387-1117	仙台市宮城野区扇町7-4-18
山 形	☎(023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
福 島	☎(024)991-9308	郡山市亀田1丁目51-15
首都圏地区		
栃 木	☎(028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
群 馬	☎(027)254-2075	前橋市箱田町325-1
茨 城	☎(029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
埼 玉	☎(048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
千 葉	☎(043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
東 京	☎(03)5477-9700	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
山 梨	☎(055)222-5822	甲府市宝1丁目4-13
神奈川	☎(045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
新 潟	☎(025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区		
石 川	☎(076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目266番地
富 山	☎(076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
福 井	☎(0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
長 野	☎(0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
静 岡	☎(054)287-9000	静岡市駿河区高松2丁目24-24
愛 知	☎(052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町8-10
岐 阜	☎(058)278-6720	岐阜市中鶉4丁目42
高 山	☎(0577)33-0613	高山市花岡町3丁目82
三 重	☎(059)254-5520	津市久居野村町字山神421

近畿地区		
滋 賀	☎(077)582-5021	守山市水保町1166番地の1
京 都	☎(075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原3番地
大 阪	☎(06)7730-8888	大阪市城東区関目2丁目15-5
奈 良	☎(0743)59-2770	大和郡山市筒井町800番地
和歌山	☎(073)475-2984	和歌山市中島499-1
兵 庫	☎(078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4
中国地区		
鳥 取	☎(0857)26-9695	鳥取市安長295-1
米 子	☎(0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
松 江	☎(0852)23-1128	松江市平成町182番地14
出 雲	☎(0853)21-3133	出雲市渡橋町416
浜 田	☎(0855)22-6629	浜田市下府町327-93
岡 山	☎(086)242-6236	岡山市北区田中138-110
広 島	☎(082)295-5011	広島市西区南観音1丁目13-5
山 口	☎(083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区		
香 川	☎(087)868-6388	高松市勅使町152-2
徳 島	☎(088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
高 知	☎(088)834-3142	高知市仲田町2-16
愛 媛	☎(089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1
九州地区		
福 岡	☎(092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
佐 賀	☎(0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044
長 崎	☎(095)830-1658	長崎市東町1919-1
大 分	☎(097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
宮 崎	☎(0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉2099-2
熊 本	☎(096)367-6067	熊本市健軍本町12-3
天 草	☎(0969)22-3125	天草市港町18-11
鹿児島	☎(099)250-5657	鹿児島市与次郎1丁目5-33
大 島	☎(0997)53-5101	奄美市名瀬朝仁町11-2
沖縄地区		
沖 縄	☎(098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。
http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html

1210

会員サイト「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をしてください

PC http://club.panasonic.jp/

※このサービスはWEB限定のサービスです。

●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック 総合お客様サポートサイト

http://panasonic.co.jp/cs/

パナソニック お客様ご相談センター

電話　365日 受付9時～20時

フリーダイヤル（携帯・PHS OK）**0120-878-365**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「130＃」を押してください。（番号を押しても案内が続く場合は、「＊」ボタンを押してから操作してください。）

■上記番号がご利用いただけない場合 **06-6907-1187**

■FAX　フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787

Open : 9:00 - 17:30

(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

●修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理サービスサイト

http://club.panasonic.jp/repair/

インターネットでのご依頼も可能です。

パナソニック 修理ご相談窓口

電話

フリーダイヤル（携帯・PHS OK）**0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

愛情点検　長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を!

こんな症状はありませんか	・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・映像や音声が出ないことがある ・内部に水や異物が入った ・本体に変形や破損した部分がある ・その他の異常や故障がある	▶	ご使用中止	故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571－8504　大阪府門真市松生町1番15号

RQTX1277-3S
F0111KA2021